

令和6年度 第4回浜益学園開校準備部会 議事録

日 時 令和7年3月11日（金）18時00分～

場 所 浜益コミュニティセンターきらり

出欠状況

	氏名	出席	欠席	所属団体等
部会長	川村 佳広	○		浜益区集落支援員
副部会長	渡邊 隆之	○		浜益区地域協議会会長
	渡邊 善仁		○	浜益小学校 P T A 会長
	船橋 秀樹	○		浜益中学校 P T A 会長
	鳴海 知佳		○	はまます保育園 父母の会会長
	木村 武彦	○		学校支援推進員
	宮田 勉	○		浜益自治会会長
	鬼塚 建次	○		浜益小学校校長
	高橋 真吾	○		浜益小学校教頭
	細田 幸男	○		浜益中学校校長
	久富 綾一	○		浜益中学校教頭
	伊藤 英司	○		はまます保育園園長

校章案作成者

浜益中学校美術部顧問 石井 紀実子 出席

浜益区集落支援員 柿岡 奈々絵 欠席

浜益中学校3年生 小田 圭織（おだ かおり） 出席

浜益中学校3年生 佐藤 杏海（さとう あみ） 出席

浜益中学校2年生 佐藤 真以（さとう まい） 出席

事務局

総務企画課 課 長 笠井 剛

主 査 市川 樹一郎

浜益学校教育課 課 長 柿崎 恵一

傍聴者 0名

1 校章の決定について

- ・浜益中学校美術部生徒3名が中心となり、校章案の作成が進められていたところ、令和7年2月27日に、浜益中学校において、美術部の生徒より最終案の提示とデザインに込められた想いについて説明がなされ、全生徒から校章案への賛同が得られた。

- ・本日の部会に同校美術部生徒3名が参加。デザインに込められた想いを説明。

～デザインの説明～

- ・右側の波は海の幸に恵まれた郷土を示し、伝統を守っていくことを求めている。
- ・浜益の頭文字である H は黄金山を連想させ、豊かな自然が広がっていることを意味し、自然とともに大きく育つことを願っている。
- ・囲んでいる稲は幸豊かな五穀を表している。
- ・中央下の桜は敷地内に植えられている桜であり、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育んでいく浜益学園の児童・生徒たちを意味している。ふるさとに学んだ子どもたちが花開き、たくましく生きていくことを表願している。

質 問 ・ 意 見

【川村部会長】

部会として、この校章案で決定するという事で良いか。

＜全会一致で承認＞

【事務局市川】

校章の決定を受けて、今後各種発注を進める。着色のない校章を使用する場合や、鋳造の都合上線が太くなる、グラデーションの再現、立体感の出し方など、細かな調整が必要となる可能性があるが、その場合、学校や柿岡さんと相談させてもらいながら、市教委として最終判断させていただくことになることを、了承願いたい。

【川村部会長】

教育委員会より、美術部生徒3名に対し、お礼をしたいとの申し出があった。

＜市教委より、生徒3名に感謝状の贈呈＞

2 令和7年度 浜益教育関連予算について

【事務局市川】

- ・複雑化・多様化する教育ニーズに適切に対応するため、令和7年度予算において、積極的な予算要求を行ったところです。その結果、令和6年度は28億8,000万円だった教育関連予算が、令和7年度は32億8,000万円となり、13.9%の増加となった。
- ・「浜益学園整備事業」は、新增築校舎の建設費及び旧校舎の改修費が計上されている。令和6年度は5億6,100万円の予算だったが、令和7年度は6億6,226万円の予算を確保している。なお、建物の引き渡しは令和8年1月を予定。

- ・「はまます保育園整備事業」は、新增築棟の1階部分に設置されるはまます保育園の建設事業が計上されている。令和6年度は1億2,500万円の予算だったが、令和7年度は1億8,740万円の予算を確保している。
- ・「浜益学園開校準備事業」は、浜益学園に配置する備品の購入費などが計上されている。厚田学園の開校の際は約2,300万円の予算だったが、浜益学園に向けては3,000万円の予算を確保している。
- ・「浜益小中学校閉校記念事業」は、閉校となる浜益小学校及び浜益中学校の閉校記念誌の発刊などの閉校記念事業の経費を計上している。小学校・中学校各75万円ずつで、合計150万円を確保している。閉校記念事業の具体的な内容は、今後地域の皆様と議論しながら、詳細を決めて行きたいと考えている。
- ・「浜益小中学校校舎等解体事業」は、令和8年4月の浜益学園の開校に伴い、閉校となる現浜益小中学校の校舎や体育館などの解体を行うための設計費用を計上している。浜益小中学校校舎の実情としては、校舎棟・体育館棟を囲む形で、国、北海道、個人1名の3者から土地を借り受けている状況にあり、いずれの賃貸借契約においても、学校としての用途廃止後は、原状に回復して返還することが原則とされている。また、当該校については、津波浸水想定区域内に位置していることや、市教委にて令和3年に策定した「石狩市学校施設長寿命化計画」の「劣化状況評価」において、広範囲に劣化が認められる学校施設となっており、今後も活用する場合は、大規模な改修が必要となることなど、利活用は現実的ではないものと判断し、解体に向けた1,130万円の予算を確保している。
- ・「特別支援教育拡充事業」は、来年度浜益小学校に特別な配慮が必要な児童が入学する予定となっており、学校看護師の配置や学校生活上の各種支援を行う教育支援員の配置、出入り口に車いす用のスロープを設置する経費など、受入環境を整備するための予算103万円を確保している。
- ・「浜益学園校舎移設事業」は、浜益小中学校から浜益学園へ移設する備品、図書、教材、教具、家具などの、いわゆる引っ越し費用を計上するもの。これについては、実際に運ぶものを精査した上で、令和7年度補正予算として年度途中で予算化するものと財政部局と協議が整っており、今後市教委と学校側で詳細を詰めていく予定。

質 問 ・ 意 見

【鬼塚校長】

「浜益小中学校閉校記念事業」について、記念誌以外にも活用することは可能なのか。例えば、看板設置などの費用に活用しても良いのか。

「特別支援教育拡充事業」について、予算の内訳はどのようなものか。特別支援教育のための備品の購入費などに活用することは可能なのか。

【事務局市川】

「浜益小中学校閉校記念事業」に関して、基本的には用途には制限なく何にでも活用できる。ただし、市の補助金に係るルールとして、人件費・交際費・飲食費などごく一部のものには活用できない。他の自治体の例では、飲食費を除く記念式典の開催経費、記念碑の建立経費、記念誌作成の経費などに使われることが多い。看板設置の費用にも活用可能である。

「特別支援教育拡充事業」について、大部分は人件費に充てられる。備品については、スロープやマットなどの既に用途が決定されているものの経費が予算化されており、これら以外に必要なものがある場合は、教育支援課が特別支援教育に要する一般備品購入費の予算を有しているため、これの活用が可能か協議してもらうこととなる。

【伊藤園長】

補足すると、学校看護師の人件費については浜益国保診療所の予算から支出しており、この事業での支出は生じない。

【高橋教頭】

「浜益小中学校閉校記念事業」について、例えば記念誌作成の経費を切り詰めて、子どもたちのために使うということも可能なのか。

【笠井課長】

こどもに閉校に係る記念品を配布する経費に活用することなども可能。

【川村部会長】

「浜益小中学校校舎等解体事業」及び「浜益学園校舎移設事業」に関連して、現在浜益小・中学校の敷地内にある石碑・記念碑の取扱いはどうなるのか。バス待合所もどうなるか。

【笠井課長】

現在の場所に残すのか、どこかに移設するのかはこれから検討していく。取り壊すことは選択肢にはないと認識している。

バス待合所については、今後検討する。

3 その他

【笠井課長】

令和7年度浜益教育関連予算については、3月24日開催予定の浜益区地域協議会、翌3月25日開催予定の浜益小中学校運営協議会でも報告する予定。